

温故知新

日野歴史探訪

私達の住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。
温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

鳥居平

大字鳥居平は、日野川支流の佐久良川中流域に位置しており、東は中之郷と奥師、西は松尾と安部居、南は村井と河原、北は佐久良と接しています。集落は、「鳥居平城跡」の山麓に広がる字「上人谷」と、江戸時代に開かれた字「篠原」に造られています。

丘に残る広大な城跡の謎

字「上人谷」の集落北東に延びる低丘陵上には、町内最大規模を誇る中世城郭「鳥居平城跡」があります。東西約800メートルにわたる広大な範囲には、約20ヶ所の曲輪（平坦地）や、曲輪と曲輪の間に設けられた大小の堀等の遺構が残っています。特徴としては、各曲輪の独立性が高く、連携して中心の重要な曲輪（いわゆる本丸等）を守る意識が低

いことが挙げられます。

また中心区域には、東西に延びる通路が設けられています。その両側に曲輪が並ぶこと等、寺院の遺構と類似する点が多いことから、寺院を城として転用した可能性もあります。それらがわかる史資料は確認されていません。



鳥居平城跡に残る堀（堀切）跡

城主にまつわる謎

史資料などから、戦国時代、桜谷

一帯を支配したのは、佐久良城（佐久良）を本拠とした小倉氏であったと考えられています。しかし、鳥居平城に小倉氏が居たことを示す同時代の記録は確認されていません。また、「吉倉氏の城」と伝わるとするもの（『近江蒲生郡志』）や、「寺倉氏の城」と記されたもの（『蒲生旧趾考』）がありますが、これらも後世の資料です。
誰が城主であったにせよ、一武将の城郭とは考えられない規模を持つ、謎の城郭と言えます。

江戸時代の開発

慶長7年（1602）、徳川家の家臣本多成重が、近江国上野田村・鳥居平村・山本村・岡屋村（竜王町）で2千石を与えられました。ちなみに成重は幼名を仙千代（せんちやう）と言いい、父（本多重次）が長篠の戦いの陣中から妻に送った日本一短い手紙とし

て有名な「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな、馬肥やせ」という文に書かれた「お仙」その人です。
さて、その後4か村は弟の主殿助に与えられ、主殿助は尾張徳川家の家臣となりましたが、寛永9年（1632）に嫡子なく死去したため、翌年に尾張領となったのでした。

元禄14年（1701）の「近江国郷帳」によると、鳥居平村の村高（総石高）は約400石となっています。大字鳥居平文書によると、元禄7年に字観音平、元禄15年に字篠原を開発したことや、享保9年（1724）に、耕作の為に字篠原に6名が出屋敷を建てたこと、この間に字篠原に2か所の溜池を築造したことなどが記されています。

これは、鳥居平新田の開発に関する記録で、少しでも耕作地を増やそうと努力する、先人達の姿を垣間見ることが出来ます。



鳥居平新田

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

聖徳太子

1400年

令和4年も
早や一月が過
ぎました。今
年は聖徳太子
様がお亡くな

りになって1400年という
節目の年です。近隣2市2町(近
江八幡市・東近江市・竜王町・
日野町)では関係寺社と連携し
た記念事業に取り組んでおりま
すが、感染症が流行するこの時
代において、太子様とご縁の
意味を深く感じているところ
です。

太子様は西暦574年にお
生まれになり、時の推古天皇の
摂政として政治を行われました。
当時の日本は飢饉や疫病、戦乱
が頻発する今と比べものになら
ないくらい不安定な世の中でし
た。そこで17条の憲法などを制
定し世の中を治められました。

第1条の「和をもつて、貴し
となす・」の言葉が有名です
が、一番最後の17条には「議論」

の重要性が説かれています。な
ぜ朝廷の権力が強かった時代に、
「争いをせず、議論をしましよ
う」と呼びかけたのでしょうか。
私は、そうしなければ、時代の
変化に対応して国の難題を乗り
越えられなかったのではないかと
考えています。

令和となり大きく時代が変
わろうとしています。新型コロナ
ナの流行は象徴的ですが、かね
てからの人口減少問題はますます
深刻化しています。その一方、
デジタル化をはじめとする技術
革新、社会経済のグローバル化
は一層進んでいます。まさに時
代の変わり目、もしも今の時代
に太子様がおられたら「広く議
論して、みんなで立ち向かって
いきましよう!」とおっしゃら
れるのではないかと思います。

太子様には到底及びませんが、
「和」を、そして「議論」を大
事にし、困難な課題、解決の糸
口が見いだせず先延ばしされて
きた課題に対して真摯に向き合
う、そんな一年にしたいと思っ
ます。宜しくお願いいたします。

近江の聖徳太子魅力発信事業

太子が休息した地と伝わる天神社

天神社は、日野町小野に鎮座する、
千年ほどの歴史を持つ神社で、太子
が立ち寄って休息をしたと伝えられ
る「聖徳太子腰掛の石」が参道に置
かれています。

祭神は少彦名命と菅原道真とされ、
一条天皇の寛弘元年(1005)に
この地に社殿を創建し、同年3月1
日に北野天満宮より勧請されたと伝
わっています。

『近江蒲生郡志』には、明和年間
(1764～1772)の棟札が紹
介されています。それによると本殿
は、文明10年(1478)に再建さ
れ、天文年間に檜皮葺へ改修されて
います。

のち明和5年(1768)に再建
されますが、明治29年(1896)
9月7日の暴風雨・洪水のため裏山
が崩壊し、破壊されたため、翌年に
再建、さらに昭和55年(1980)に
は瓦葺きを銅板葺に改修されました。
また、拝殿は明和年間に修復され、
文化3年(1806年)に再建され
たと伝われます。

天神社には、室徒株という宮座(祭
祀に携わる村落内の特権的な組織)
が明治中期まで17軒存在し、社守を
継承してきたとされていますが、現
在は地域の氏子全体で奉仕をされて
います。

例大祭は、毎年4月24日に行われ
ます。



◆問い合わせ先

日野町商工観光課

☎0748-152-6562

東近江市観光物産課

☎050-5801-5662